



病気じゃないから・・・、薬は身体に悪いのでは・・・と思ってガマンしていませんか？

北九州市立八幡病院婦人科では、月経異常や月経関連疾患の管理や婦人科に関わる思春期、性成熟期および更年期医療を通常の外来診療枠内でも診療しております。月経異常・月経随伴症状（月経前や月経中の不快な症状）や更年期の方にはヘルスケアに関する知識と患者さんの個性にあわせた個別対応が重要であり、患者さんのご希望やライフステージに合わせた治療を計画する必要があります。おひとりで悩まず、まずは当院婦人科専門医にご相談ください。



主な女性ヘルスケア診療

子宮内膜症

月経痛(月経困難症)が主な症状です。不妊症との関連も指摘されています。病状が進行すると慢性的な腹痛、性交痛、排便時の痛みなどがみられます。診断の確定には腹腔鏡が必要ですが、通常は臨床症状と内診所見や超音波検査、血液検査などで診断します。一定以上に卵巣が腫大していたり(チョコレート嚢胞)、不妊の原因となっている場合には手術を行うことがあります。

月経前症候群

ホルモンの変動によって引き起こされる、イライラ感や気分の落ち込みなどの精神症状と下腹痛痛などの身体症状を引き起こす疾患です。症状は月経前1～2週間の時期に起こるのが特徴です。症状に応じて鎮痛剤、低用量ピル、鎮痙剤、抗不安薬、抗うつ剤、漢方薬など様々な対処法があるのでご相談ください。

無月経・月経不順

妊娠でなければほとんどが排卵の障害が原因と考えられ、ホルモン測定・基礎体温のチェックをして対処法を決定します。最近、若い方の摂食障害(拒食症、過食症)に伴う無月経や多嚢胞性卵巣症候群による月経不順が増えています。長期の無月経の多くは無排卵となっています。妊娠を考えていない方はホルモン療法を行い、一方妊娠を望まれている方は、排卵を起こす事を目標とした治療を行います。原発性無月経の場合、子宮奇形・染色体異常なども考慮しなければなりません。15-16歳になっても月経がない場合は早めにご相談ください。

特集

女性アスリート選手における無月経と月経不順

無月経の原因は様々ありますが、スポーツに参加する女性で最も多い無月経の原因は、運動量に見合った食事が摂取出来ていない「利用可能エネルギー不足」です。このエネルギー不足の状態が続くと、脳からのホルモン分泌が低下し無月経、無排卵となります。つまり、月経不順や無月経は、エネルギー不足のサインである可能性があります。

では、無月経になるとどのような問題が起きるのでしょうか。無月経に伴う低エストロゲン状態が続くと、若い女性においても骨量低下につながります。

エネルギー不足や骨量低下は、スポーツに参加する女性にとって疲労骨折のリスク因子の1つとなることが報告されています。この低骨量の予防は、10代でのエネルギー不足や低体重を防ぐこと、これによって無月経に伴う低エストロゲン状態を回避することにより、しっかり骨量を獲得することが重要となります。無月経期間が長い程、骨量等への影響も大きくなり、また将来の妊娠への悪影響も懸念されます。



【婦人科受診が勧められるケース】

- ① 3か月以上、月経が止まっている
- ② 15歳になっても初経が来ていない
- ③ 疲労骨折を繰り返している



婦人科 主任部長 平成7年卒

井上 統夫

- ・日本産科婦人科学会 専門医
- ・日本女性医学会 専門医 他



婦人科 部長 平成15年卒

今福 雅子

- ・日本産科婦人科学会 専門医
- ・女性アスリート健康支援委員会 講習会受講医 他